

2

死の病ではなくなったエイズ

皆さんは「エイズ」について、どのくらい知っていますか。エイズは、体の免疫機能を低下させるウイルス「HIV」に感染することで起こる病気です。

内閣府が平成三十年に公表した世論調査によると、エイズの印象について、五十二%の人が「死に至る病である」、三十四%の人が「原因不明で治療法がない」と回答しており、未だに多くの人が誤った認識でいることが分かりました。

もし、あなたがHIVに感染したら、どうしますか。ある男性が、感染したことを打ち明けようと、友人を呼び出したようですよ。

「どうしたんだよ、改めて何の話？」

「忙しいところ悪かったな。伝えておきたいことがあって…。俺、HIVに感染してるんだ。」

「ええ？ なんだか平然と言っけど大丈夫なのか？」

「問題ない。普通に生活できる。今はエイズの発症を遅らせる治療をしてるんだ。」

「きみがエイズだなんて…。」

「いや、HIVに感染はしているけどエイズになったわけじゃないよ。適切な治療を続けられ、長期的にエイズを発症することなく、健康な人と同じように生活できるんだ。」

「本当か？」

「ああ。それに、いつかエイズを発症しても、ある程度は症状をコントロールできると思う。エイズはもう死の病ではないと言われたよ。死亡率もかなり下がっているんだよ。」

「言いにくいけど、感染とかしないのか？」

「HIVは感染力が弱くて、感染経路は性行为による感染・血液感染・母子感染の三つだけ。体に触れる、一緒に食事をするといった日常的な接触ではうつらない。だから…これまで通りに接してもらえたらいいんだけど。」

「そんなの、当たり前だろー！」

HIVや、それに感染することで起こるエイズについて、まだ知識不足や誤解が多いのが現状です。それが偏見や差別を生むこともあります。「エイズは死の病ではない」「HIV感染後も普通に生活できる」「HIVは日常的な接触ではうつらない」という正しい認識を持つことが大切です。

また、HIV感染後も普段通りに生活するためには、早期発見がカギとなります。HIV検査は全国の保健所で匿名で受けられ、費用もかかりません。気軽に相談してみてください。では、また。